

■令和6年7月1日 定例記者会見内容

- 1 日 時 令和6年7月1日（月）11：00～11：20
- 2 場 所 市役所本庁舎3階 第3委員会室
- 3 出席者 ○市長、副市長、総務部長、企画部長、地域創生部長、危機管理監、
教育次長、市長公室長
○酒田記者クラブ／各社
幹事社／山形新聞社・YBC

1 第1回酒田市スポーツフェスティバルについて（スポーツ振興課）

市長／まず、第1回酒田市スポーツフェスティバルについてでございます。

今月の7日、日曜日ですけれども、誰もがスポーツを楽しめる体験型のイベントとして、INPEX酒田アリーナと、そこに隣接しております飯森山多目的グラウンドを会場に、第1回酒田市スポーツフェスティバルを開催いたします。

昨年まで、7月の第1日曜日に開催されてきました酒田市民体育祭は、昨年の7月2日（日曜日）に第51回を最後に終了いたしました。このイベントはコミュニティ振興会単位での対抗戦という、競技型のイベントでありました。しかしながら、より多くの市民が気軽に集い、スポーツに触れ合えるイベントが開催できないかという声を受けまして、昨年来、主催団体との協議を重ねて参りました。その結果、市民体育祭のような競技性を重視したイベントではなく、よりレクリエーション性を重要視し、市民の皆様がスポーツを楽しんでもらえるようなイベントとして、酒田市スポーツフェスティバルと形を変えて開催することになりました。

開催内容ですが、大会種目としましては、モルック、輪投げ、カローリングの3種目に、72チーム287人の方の参加が予定されております。これまでのようなコミュニティや地域単位だけではなくて、サークル、企業、友人の仲間などの単位でチームを組んで、事前にお申し込みをいただきました。

また、事前の申し込みが必要ない体験会も開催します。そこではトップアスリートが取り入れているストレッチを紹介する「腰痛予防ストレッチ教室」や、一輪車、タグラグビー、ボッチャ、フロアカーリングなどの体験会も行います。酒田市スポーツ振興会とスポーツ推進委員、酒田市スポーツ協会、そして市内の各企業様などからご協力をいただいて開催するものです。また、東北一輪車演技大会で優勝した酒田市の一輪車チーム「酒田ユニサイクルケセラ」のメンバーによる演技の披露、それからキッチンカーの出店などもありまして、1日中、様々なスポーツを見て楽しめるイベントとなっておりますので、ぜひご家族連れで多くの市民の方からお越しいただければと思います。

本市が掲げます「するスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」がぎゅっと1つに詰まった楽しいイベント、大会に向けて取り組んで参りますので、よろしく周知方お願い申し上げます。以上です。

■代表質問

1 酒田市沖洋上風力発電事業について

記者／酒田市沖洋上風力発電に関する意見交換会は、先月、中学校区7か所で行われました。終了しましての所感とですね、今後の市民への説明の場の確保の仕方、法定協議会設置などのスケジュールについて、お聞かせいただければと思います。

市長／6月14日から28日までの間に、市内7か所、中学校区単位で意見交換会を開催いたしました。延べ256名の市民などの皆様からご参加をいただきました。金曜日に終わったばかりですので、まだ詳細な正式な報告、詳しい報告は受けておりませんが、中間報告は聞いておりますし、参加した様々な方から、早速意見、感想なども私のところにいただいております。大体的な様子は把握しており、主立った様子は把握しているつもりであります。

意見交換会では山形県から、酒田市沖洋上風力発電事業の取り組み状況について、そして酒田市からは洋上風力発電を契機とした地域振興策のたたき台について、それぞれ説明をし、その後、参加者の皆様と意見交換をさせていただきました。参加者からは、市民への説明や周知が足りないといった声、それから不安や懸念の声もいただきました。具体的には、風力発電施設から発生する騒音などによる「健康への影響」や、能登半島地震を踏まえた「地震や津波が起こった場合の影響」、それから「漁業への影響」に対する意見が特に多かったと捉えております。

今回いただきました不安や懸念の声につきましては、具体的な回避策・低減策を、事業者に求める留意点、環境配慮事項として取りまとめ、事業者に求めていくことによりまして、地域漁業との共存共栄を図って参りたいというふうに考えているところであります。

今後の市民への説明それから法定協議会設置などのスケジュールについてですが、今後のスケジュールにつきましては、先行する遊佐町沖の事例を参考にいたしますと、酒田沿岸域検討部会、いわゆる酒田部会などにおいて、今回いただきました意見を報告、そして協議をした上で、特に意見が多かった不安・懸念などをテーマとして、講師を招いて、市民向けの学習会を開くということなども考えられると思っております。具体的な内容などにつきましては、山形県とも相談しながら検討したいと思っております。

また、山形県から酒田部会や法定協議会などの開催予定スケジュールは示されておられませんけれども、繰り返しになりますが、今回の意見交換会でいただきましたご意見等については、酒田部会等に報告し、議論していくことが必要だと考えておりますので、酒田部会等の開催に向けて、県と協議をしていきたいと思っております。

今後も市民の声に寄り添いながら、酒田部会、法定協議会等で議論を重ねていきたいと思っております。私からは以上です。

記者／ありがとうございます。7回で2百何人でしたか。

市長／256人です。

記者／それは多いと思いませんか。少ないと思いませんか。

市長／1か所当たりで、少ないところでも24名、多いところで50名。7か所で、そうです。

ね1回当たり30名から50名。そのぐらいではないかなというふうに思います。ちょうど思っていた通りの人数だと思います。

2 東北公益文科大学の公立化と機能強化の検討状況

記者／では2問目に移らせていただきます。東北公益文科大学の公立化と機能強化の検討状況、今後のスケジュールについてお聞かせください。

市長／はい、こちらにつきましてはもう報道の方が先になされている部分もございますが、私から改めてご説明を申し上げたいと思います。

公益大の公立化と機能強化につきましては、これまで県と庄内地域2市3町の実務担当者間で、協議と検討を重ねてきたところですが、先月、6月7日の知事と庄内地域2市3町の首長によるオンライン会議において、効率化に向けた3つの課題である、1つ目「設立団体の考え方」、2つ目に「財政負担のあり方」、3つ目「機能強化の方向性」について率直に議論し、認識を共有いたしました。

第1番目の設立団体につきましては、「大学設立当時の趣旨を踏まえて、県と庄内全域の全ての市、町が一体となって大学を運営することが妥当である」という、そういう考え方のもとで、「県と現在の2市3町が設立団体として関与する」ということで認識をいたしまして、具体的には県と、既存の一部事務組合であります、庄内広域行政組合が、共同で設立団体となる方向性で検討するというのを合意いたしました。

2つ目の財政負担割合につきましては、令和5年度に県が行った「東北公益文科大学の公立化及び機能強化の検討に係る基礎調査」での財務シミュレーションにおきまして、設立団体が公立大学法人に交付する運営費交付金の地方交付税超過額が、年間で約2億円から5億円になるという試算結果が出ました。それを踏まえまして、そういう超過する負担額につきましては、大学設立時の負担割合である「県55%、庄内地域2市3町45%」を基本に検討していくということ、オンライン会議では確認をいたしました。

また、市と町の負担割合の算定につきましては、庄内地域の大学として、地域全体で支えることに着目をいたしまして、「均等割」と「人口割」からなる「基礎割」、そして大学があることによる成果、効果に着目した、経済波及効果割と卒業生就職者数割からなる「応益割」を採用することとし、以上申し上げた「均等割」「人口割」「経済波及効果割」「卒業生就職者数割」の4つの要素を用いて算定する方向で進めることを確認いたしました。

その後、庄内地域2市3町の45%のうちの具体的な負担割合につきましては、酒田市が59.8%。鶴岡市が30.1%、庄内町が4.1%、遊佐町が3.4%、三川町が2.6%とすることを、県と庄内2市3町の首長の間で確認をしたところであります。これにより、県と庄内2市3町の財政負担割合ですけれども、県が55%、酒田市が26.91%、鶴岡市が13.545%、庄内町が1.845%、遊佐町が1.53%、三川町が1.17%となります。

3つ目の機能強化につきましては、大学自身の考え方も大切ではありますが、公立化することになると、設立団体となる自治体の考え方も重要になってくると思います。6月7日のオンライン会議では、県から、更なる機能強化の方向性の素案として、「地域に

強い公益大」「デジタルに強い公益大」「国内外を開拓する人材を育成する公益大」の3つの方向性をお示しいただきまして、各首長が率直な意見を申し上げたところでありました。今後とも、大学や専門機関の意見も伺いながら、引き続き検討していくこととしております。

今後のスケジュールですが、現時点では、大学の公立化の時期は決まっておられませんけれども、6月7日のオンライン会議では、早期の公立化に向けて改めて県の協力をお願いしたところでもあります。一方、先行して公立化した大学の事例を見ますと、公立化には最低でも1年半の準備期間が必要なようでもあります。引き続き、県に指導を仰ぎながら、早期の公立化に向けた作業を進めていきたいと思っております。

6月7日の会議での検討内容と、この度、首長間で確認した庄内地域2市3町の財政負担割合については、6月20日に市議会にお示ししたところでもありますけれども、今後改めて、議会には説明をし、ご意見をいただく予定にしております。私からは以上です。

記者／ありがとうございました。2市3町の財政負担割合に関してですが、各市議会議員、町議会議員の皆さんには、既にご案内がいつているようでして、酒田市議会を先行して説明されていますけれども、酒田追々、町議会はこれから委員さんに説明するみたいなのですが、そのあとでの2市3町の首長様方と県との具体的な協議の日程っていうのは、何か固まっているものとかはありますか。

市長／特にまだ示されてはおりません。今申し上げましたように1年半かかるということですので、早めに進めていきたいと思っております。

■フリー質問

1 女子中学生自殺問題で再調査委員会の進捗状況について

記者／女子中学生の自殺事案の関係で再調査委員会の今の進捗状況と報告書の見通し等、もし分かれば教えていただけたらと思っております。

市長／私の方から特にまだ日程とか、お示しできることは、特に報告は受けておりませんので、お知らせすることはないのですけれども。

総務部長／以前の記者会見等でもご説明申し上げましたとおり、最終の段階で、今現在、報告書の取りまとめを行っております。各委員の中で協議が行われているということですので、現時点で、いつということは申し上げられない状況ですけれども、しかるべきところで、報告書を公表ということで、事前に日程をお知らせして、記者の皆様にもご説明をさせていただく機会を設けたいというふうに考えてございます。

■その他

- ・ 特になし